

東士狩小学校 学校だより 12月号 (令和5年12月22日発行)

さわやか

3つの「あ」 あいさつ あんぜん あとしまつ

【東士狩小学校 教育目標】

個性豊かに、たくましく生きる
子供の育成

『めざす子供像』

- 自ら学び表現する子
- 友だちと仲よくする子
- 進んで身体をきたえる子
- ふるさとを愛する子

校長 坂下 亮宏

みんなが躍動した2学期が終了

令和5年も、気がつけばあと10日あまりとなりました。今年は新型コロナウイルスも5月8日以降、感染症法上5類に移行し、これまで制限されていた学校行事や教育活動もコロナ前と同様の活動を行うことができました。夏には、「地球沸騰」と呼ばれるほどの猛暑により熱中症アラートが発令されるなど、教育活動にも大きな影響を与えました。また、町内でも大流行しているインフルエンザですが、幸い本校では罹患する児童もなく、無事に2学期を終えることができました。保護者・地域の皆様には、日頃より本校の教育活動に、ご理解、ご支援いただき、心より御礼申し上げます。

さて、東士狩小学校では8月17日から始まった2学期が、本日12月22日に終了いたしました。登校日88日と長丁場の2学期でしたが、学習発表会を始め多くの学校行事を行う中で、保護者・地域の皆様にご協力をいただきながら、子どもたちの成長する姿がたくさん見られ、非常に充実した期間だったと思っています。

3学期は1月16日(火)から始まります。2ヶ月あまりしかないので、あっという間に今年度が終わってしまいます。今年度の締めくくりと次年度のスタートを見据え、心と頭と身体がしっかりと対応できるよう準備を進めて参ります。保護者・地域の皆様にもぜひご理解ご協力をお願いいたします。

それでは、皆様、よいお年をお迎えください。来年もよろしくお願いたします。

木札、下の匂にみる遊びの文化「百人一首」～北海道遺産～

東士狩小学校では、全校児童による「かるた大会」(百人一首)が毎年12月に行われています。下の句かるたは北海道に入植した人々により道内に普及し、特徴としてはみなさんご存じの通り「木の札」で、北海道特有の遊びの文化です。また、東士狩小学校では、縦割りでチームを編成し、礼節やチームワーク等を体験でき、長く続いている教育活動の一つです。

勝敗にこだわらず、威勢よく札を取り合ってほしいところではありますが、子どもたちの表情は真剣そのもので、中には悔しさのあまり涙する児童もいたようです。

さて、正月はご家庭でも「百人一首」を行ってみてはいかがでしょうか。北海道の伝統・文化に触れる機会になることでしょう。家にはない方は連絡いただければお貸しします。



つながる東土狩

「味噌づくり」3・4年生 総合的な学習 12月1日

12月1日（金）に、小玉さんのおばあちゃんをお招きし、3・4年生による味噌づくりがおこなわれました。味噌の材料となる大豆は、「音更大袖振大豆」で、この夏に細木先生の協力のもと学校農園で育てたものです。

さて、味噌づくりは決して楽な作業ではありませんでした。大豆を煮て、それを手分けしてつぶす作業と子どもたちにとってはかなりの重労働でした。できた味噌は、これから最低1年は寝かせて熟成させます。子どもたちの口に入るのは来年の冬になりそうです。



アスリート先生による「縄跳び教室」 12月20日

12月20日（水）には、日本ジャンプロープ連合北海道支部長（ダブルダッチインストラクター）日高龍太郎さんによる縄跳びの授業を行いました。

今回、来校するきっかけとなったのが、「アスリート先生179」事業に当選したことです。種目は多岐にわたっておりましたが、本校の教育活動で「なわとび検定」が毎年行われていることから、「縄跳び」のアスリート先生を呼ぶことになりました。

授業では、まず日高先生によるパフォーマンスを披露していただき、子どもたちからは大歓声が沸き起こりました。その後、縄跳びの基礎的な技術、決めのポーズ、難易度の高い技の「コツ」を教えてもらいました。最後にはダブルダッチにも挑戦し、どの子も笑顔で挑戦する姿が見られました。



輝く東土狩っ子



第1回十勝小中学生将棋王将戦（12月9日）
ちびっこ王将戦 優勝 2年 小玉 夕陽さん

予選リーグでは1敗しましたが、決勝戦では予選で負けたリベンジを果たし、優勝することができました。おめでとうございます。

学校での教育活動はもちろん、学校外で頑張る東土狩っ子を紹介します。頑張る姿を学校にもお知らせください。その際には、賞状を校長室まで持ってきてください。写真とともに掲載したいと考えています。よろしくお願いいたします。